

意見交換
テーマ

水素ステーションの整備促進について

1 趣旨

水素は、天然ガスの改質や水の電気分解など様々な方法で製造が可能であり、また、利用段階ではCO₂を排出しない「究極のクリーンエネルギー」であることから、次世代エネルギーの主役として期待されている。

水素エネルギーは、家庭用燃料電池や産業用燃料電池、さらに2015年に市場投入が予定されている燃料電池自動車（FCV）など、様々な形態での利活用が想定されている。

このうち燃料電池自動車（FCV）の普及には、燃料となる水素を充填するための水素ステーションの整備が不可欠であるが、現在、県内では既存の1施設のほか3施設が計画されているのみにとどまっている。

水素ステーションの整備には、幹線道路付近に一定規模以上の土地が必要であるが、都市部においては、適地の確保が課題となっている。

水素ステーションの整備については、広域的な視点から計画的に進めていく必要があることから、四州市が連携して適地の確保を図っていく必要があると考えている。

さらに、水素ステーションの建設に当たっては、周辺住民に対して水素ステーション等の安全性について十分な周知を行って、理解を得ていくことが重要であることから、四州市が連携して普及啓発に取り組むことで、高い効果を上げていきたい。

2 提案

平成25年度内に、四州市において公有地を含む水素ステーションの適地に関する情報交換を行い、適地の情報を県が整理した上で、県が設置している次世代自動車普及推進協議会の枠組みを利用して、整備促進計画を策定し、インフラ事業者へ働きかけることで、水素ステーションの整備促進を図ることを提案する。

また、四州市が有する各種の媒体やイベント等を活用して、水素ステーションや燃料電池自動車（FCV）に関する普及啓発に連携して取り組むことを提案する。